

# 品川支部

令和7年7月1日発行  
〒141-0022  
品川区東五反田1-8-5  
TEL 3442-7075  
発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

## 7月

## 「こどもおちばがえり」の季節になりました

今年も「こどもおちばがえり」の季節がやって参りました  
昭和二十九年(1954年)に「おちばがえりこどもひのきしん」として始まって以来、六十回を超えての開催です  
三年千日、最後の年で今年は特にたくさんの方にお帰りを頂きたいと真柱様はお話しされました  
百四十年祭に向け、仕上げに家族だけでなく周りの方もお誘いして夏のおちばへ参りましょう



# こどもおちばがえり

### ☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

七月九日(水)午後六時  
都南分教会にて

七月九日(水)午後六時  
都南分教会にて

・支部例会

七月は例年になって参りましたが、本部子供おちば帰りの期間に重なりますので二十一日開催になります 又年初の予定から会場も豊英分教会と変更になりますのでお間違えの無いようご参集下さい ※二頁に詳細掲載

・教区百四十年祭活動「みんなでのきしん」

在宅センターひのきしん

三十日大井在宅介護センターで

尚、神名流し、ゴミ拾ひひのきしんは七月八月はありません

・教区ひのきしん

今月は本大崎組です

よろしくお努め願います

### ☆教務支庁からのお知らせ

・教区決算と今期予算審議・承認会議

先月十九日入江教区長はじめ

主事、担当者から各支部の地方委員に向けての前期決算と今期予算の説明があり、質疑応答の上承認されました

尚、現在管内教会の七百九十七カ所と二百五十八カ所の布教所からの教費収入、本部交付金、そのほかで運営されています

・第四回ようぼく一斉活動日集計

雨模様が心配された中、九十名(子供七名)の参加を頂き「ようぼく一斉活動日」が催されました

アンケートでは「おさづけの取り次ぎ」等ほとんどの方の良い評価を頂きましたが、一方耳の不自由な方等への配慮が足りていない事も見えてきました。次回での参考にさせて頂きます

・おちば帰り

・帰参バス、車の空き席利用

おちばへ一人でも多く帰参して頂くという事で費用節約の情報です  
交通費節約では、日本橋や都南等のお教会からのバスの空きを利用させて頂いたたく事ができるそうです

片道五から六千円程度で本部までの直行便ですので空きがあれば大変お得で便利です

その他にも車で相乗りという方法もあります

運行の日にもち等確かめて節約して帰参の回数を増やしましょう

\*区内大使館・領事館紹介記事のお詫び  
先月の表紙ページに掲載いたしました大使館・領事館の地図等に不備を指摘頂きましたので確認いたしましたところ、地図にふられた番号と国別国旗の掲載との番号との整合性はありませんが、同時に令和二十年以前の資料ですべて存在していないものも含まれている事が判明、確認不足でお詫び申し上げます

時報手配り七月予定

二日は九日に合併号となり発行は有りません

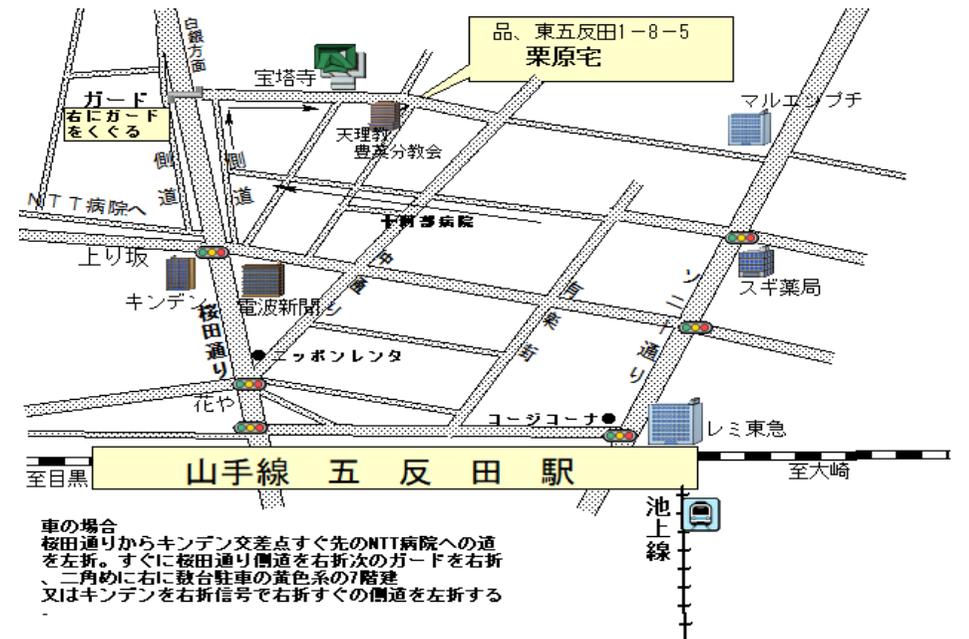
拠点教会	9日号	16日号	23日号	30日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	直送
本 荏	直送	直送	直送	手配り
南 泰	手配り	手配り	手配り	直送
三ツ木	直送	直送	手配り	直送
水豊田	手配り	手配り	手配り	直送

# 品川支部例会

## 令和七年7月21日 (月) 11時開始

### 場所 豊英分教会

座りづとめ よろづよ八首七下目  
東京教区、支部連絡事項  
当該栗原教会長挨拶  
昼食の用意頂いてます  
\*各教会の方のほかどなたでも  
(白足袋ハッピ着用)



豊英分教会  
品川区東五反田1-8-5  
03-3442-7075

その日を嬉しい気持ちで

豊英分教会長



昨年、ある先生の身上におけるお話を伺いました。病状は腹内の腸が破裂し命に関わるような状況でしたが、周りの大きな祈りの中さすがに無事手術も大きなご守護を頂いてリハビリに入っていました。しかしながら回復がご自身のイメージより遅かったようで医者にいつになったらしっかり機能が戻るのか尋ねたそうです

するとその医者は患者が高名な天理教の先生と知ってか知らないでか『我々の仕事は悪い箇所をさがし、それを切って取ってつなぐ仕事で後は神様の仕事だ』と言われ『全くその通りだ』と気がついたことを嬉しそうに又自嘲気味に聞かせて下さいました。自教会の話になりますが高齢者の集まりではあるのですがこの十年近くお出直しはあっても手術らしい話の記憶が無いほどご守護いただいております

しかるに今年四月のほんの一ヶ月の間に一人は卓球サイズの胆石の摘出、一人は脳血栓から頸部血管の拡張、また一人は大腸がん摘出となんと三人の大きな手術という節がありました。この前の月、私は教養掛かりを拜命してひと月を五年ぶりでおちばで過ごす事になりました三年千日の最後の年でもあり一杯勤めさせていただこうと勤めて終了した直後の事で『なんとこつた』と思った次第でありますしかしそれがそれぞれ素晴らしいご守護をいただけて来ると本当に有り難いと思える事となりました。時期にしても神様の用意して下さることなんだと得心できたところでもあります。

又長期の入院を余儀なくされていた方には前述の先生のお話が大いに役立ってくれました。我々は小さい頃から身上、事情は神様からのお手紙だと親から聞かせていただいておりますではお手紙を戴いたらどうするかということですが、まず開いて何が書かれているかを読みます。なかなか読み取ることが難しいのですがそうすると親に読ん

でもらったり、それでもわからないと教会の会長さんとか先生に読んでいただいたりします。そうして少しでも得心がいったなら、今度はどうしまししょう。そうお返事を書かなければいけません。このお返事が『心定め』になると聞かれます。心定めはひのきしん、つくし、運び等、人が喜んでくれること、神様がお喜び下さる事なら何でも良いとも聞かせていただきました。そして、それを喜んでさせてもらうことを「たんのう」と教えられます。

たんのうは前生からのいんねん納消といわれ、身上、事情の根本の原因を取り除ける神様から教えていただいた手段と言うことです。ご守護を十分に頂いているときのひのきしんはこれからへの徳積ということになります。神様は足りなければ貰う、余れば返すと教えていただいております。

この三人の身上の他にも当教会ではこの時期に重なる大きな事情がありました。少し前から予兆はあり処に苦慮していた事柄をもこの同じ月に見事に排除して頂く事ができたのです。こうしてみると、三年千日の終わりに修養科教養掛を務めさせていただき戻ってきて、わずかひと月のうちに当教会の大きな節となるところを一掃して頂けた訳であります。

この一ヶ月の出来事で真柱さまが述べられていらした「うれしい気持ちで百四十年祭その日を迎えていたできた」との言葉を教会に関わる方々と実践できるのだと有り難い気持ちでいっぱいになりました。

あと数ヶ月、もっと嬉しい気持ちで迎えることができる事があるかもしれないと楽しみにその日を待っている次第であります。

栗原 薫